

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Associations of parental education with children's infectious diseases and their mediating factors: the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

両親の教育歴と子どもの感染症罹患との関連およびその媒介因子:
エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 千葉ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Epidemiology

年: 2024 DOI: 10.2188/jea.JE20240192

筆頭著者名: 成田 正見

所属 UC 名: 千葉ユニットセンター

目的:

親の教育的背景は、ワクチン接種、経済状況や生活スタイルを通じて、子どもの感染症罹患に影響する可能性がある。そこで本研究では、親の教育歴と子どもの3歳までのワクチンで予防可能な感染症(水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、百日咳、麻疹、風疹)の罹患との関連性を調査した。

方法:

エコチル調査のデータのうち、解析に必要なデータが揃っている子ども80,930人を評価対象とした。親の教育歴と子どもの感染症罹患との関連について二項ロジスティック回帰分析を用いて調べた。また、パス解析を用いて、世帯収入、ワクチン接種、保育施設利用および家庭内喫煙の媒介効果を調べた。さらに教育歴とワクチン接種との関連において、収入を介した効果と収入を介さない効果を比較した。

結果:

任意接種の対象である水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザの罹患率はそれぞれ4.5%、1.9%、13.2%であり、父親の長い教育歴と罹患率低下が関連していた。母親の教育歴と子どもの罹患との関連は父親ほど強くなかった。両親の教育歴と子どもの任意ワクチン接種の関係には、収入を介する効果と介さない効果の両方がみられた。定期接種の対象である百日咳、麻疹、風疹については発症率が低く(0.0%–0.1%)、両親の教育歴との関連はほとんどみられなかった。

考察(研究の限界を含める):

水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザに関して、父親の教育歴が長いことによる罹患リスクの低下が示唆された。母親の教育歴と子どもの感染率との関連は弱かったのは、教育歴が長いと、母親が就労しているケースが多く、保育施設の利用が多いため感染率が上がり、ワクチン接種等の効果が相殺されたためと考えられる。両親の教育歴と子どものワクチン任意接種の関係には所得を介する効果と介さない効果の両方がみられたことから、ワクチン接種率の向上のためには、経済的支援だけでなく、よりきめ細かい情報提供などの必要性が示唆された。
なお、本研究の限界は、ワクチン接種回数は不明であること、質問票の回答に基づくデータを用いており、思い出しバイアスなどの可能性があることなどがある。

結論:

ワクチンで予防可能な疾患のうち、任意接種の対象である疾患については、父親の教育歴が長いほどワクチンの接種率が高く、罹患リスクが低かった。教育歴とワクチン接種との関係には所得を介する効果と介さない効果の両方がみられ、接種率向上のためには、経済的支援だけでなく、接種を躊躇する親への対応などが必要であることが示唆された。